会長退任にあたって

第９期会長　　笠木　伸英（東京大学大学院）

日本数値流体力学会の会員の皆様には、お健やかに新しい年を迎えられたこととお慶び申し上げます。皆様が希望に満ちた一年を送られることを祈念したいと存じます。

さて、前期会長をお引き受けし、小生に取りまして誠に荷の重い、また一方で印象深い一年でございました。幸い、昨年 12 月の総会にて第 10 期会長の久保田弘敏先生にバトンタッチをすることができました。ここに、一言退任のご挨拶をさせていただきます。

本学会の主要な活動は、第一に数値流体力学シンポジウムの開催であり、ご承知のように毎年多くの研究発表と参加者の活発な議論の場となっております。第二に、定期的な学会誌、英文ジャーナルの発行があります。さらには、講習会の開催などによる数値流体力学の教育・啓蒙活動がございます。このような本学会が、さらに社会の期待に応え、優れた研究成果を醸成し、また次世代に向けた研究者・技術者を育成するために、学会の将来方向の明確化、財政の健全化、組織整備、出版体制の整備、会員の増強などの課題が指摘されておりましたが、前期理事会メンバーの積極的なご賛同を得てこれらの課題に正面から取り組むことに致しました。

まず、総会の下に評議員会を、さらにその下に理事会を設置して学会の運営にあたる新運営体制を発足させました。理事会には、会長、副会長、総務、企画、財務、編集担当理事を置き、それぞれが学会事務局と連携しつつ運営の実務にあたっております。理事会には、数値流体力学シンポジウム実行委員長が加わって、経常業務や長期課題に迅速に対応することができたと思っております。学会運営の組織として格別目新しいものではありませんが、本学会に相応しい、コンパクトで透明性のある組織と運営方法の実績ができました。この体制とスピリットは、今後にも引き継がれていくものと考えております。

また、昨年から学会誌のウエブ化に踏み切り、豊富なコンテンツを含んだ学会誌を、学会財政を圧迫することなく皆様にお届けできるようになりました。今後も、カラーや動画の情報を含めて充実した記事をタイムリィに配信し、会員間の情報伝達を促進し、その役割をより幅広く果たせるものと期待しております。

前期の最大の課題は、何といっても学会の将来ビジョンと組織についての検討でございました。日本数値流体力学会は、1992 年の設立以来、我が国の数値流体力学分野の発展および関連の国際活動に多大の貢献を果たして来ました。しかし、約 500 名の会員を抱える本学会が、人的にも学術的にも重複を有する他学協会と競合しながら、教育研究機関の研究者のみならず産業界の技術者との連携を拡げ、一層の国内外活動の展開を計ることは、学会規模や財政面から大変困難であり、抜本的な改編を進めざるを得ないことも明らかになりました。このような状況を勘案し、昨年久保田副会長を主査として将来構想検討ワーキンググループを組織し、学会の将来のあり方を多角的に議論していただきました。その結果、本学会のアイデンティティを失うことなく発展を可能とする方途として、（社）日本流体力学会との融合

©日本数値流体力学会

を 2002 年秋に行うことを昨年末の総会でご提案し、皆様にお認め頂いたところでございます。両学会の融合は、単に本学会の行く末のみならず、広く我が国の流体力学分野の研究活動が一層の発展を遂げ、国内外社会に真に貢献できるための体制創りを目指したものでございます。今期の久保田会長、理事の方々には、今後融合に向けた詳細な詰めを遅れなく進めていただけるものと確信しておりますが、加えて、新学会の飛躍的発展は、それを支える会員一人一人の活動にかかっております。皆様のご協力を切にお願い申し上げる次第です。

以上のように、第９期は異例のスタートを切り、その後さらに学会の将来方向に関して極めて重大な決断をした年になりました。幸いに本学会の転機に向けた舵取りを実現するに至りましたが、これまでアンケートを始めとする複数の意見集約の過程では、会員の方々から多くの貴重なご意見と励ましのお言葉を頂きました。会員の皆様，そして小生と共に学会運営に熱意をもってご尽力いただいた前期役員の皆様に対して心から御礼を申し上げ、退任のご挨拶とさせていただきます。

©日本数値流体力学会